

学校名 北海道標茶高等学校

学校関係者  
学校評議員  
5名

1 学校教育目標

- 探究 主体的で協働的な探究により、質の高い学力を身に付け、地域社会の発展に資する生徒を育てる。
- 飛躍 新たな時代において、不撓不屈の精神を以て、自己実現を目指すことのできる生徒を育てる。
- 共生 「人」、「自然」、「食」等に関する実学を通して、生命を尊び、多様性を認め合い、豊かな人間性を持った生徒を育てる。

2 重点目標

- 国際理解、地域、文化、自然環境、職業教育等に係る系列事業、並びに社会と連携したキャリア教育の一環の内容充実を図るとともに、それらを通じ「いのちの尊厳」と「共生の意識」について体得させる。
- 各教科・科目の授業づくりに当たっては、カリキュラム・マネジメントを活用し教育課程の管理に努めるとともに、全ての教育活動において主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善と教育効果の向上を図る。
- 自ら獲得した様々な学習成果や手段を用いて協働して解決しようとする意欲や方法を継続的に身に付けさせるとともに、相手に伝える表現方法や技能を身に付けさせる。
- 地域の教育機関としての認識と使命感を持ち、高等学校としての役割を模索するとともに、常に広くわかりやすく日々の教育活動に係る広報活動に努める。

3 経営方針(目指す学校像)

- 本校の総合学科の理念を指し、主体的で対話的な深い学びと多様な進路実現を保障する教育環境の整備に努める。
- 学校及び地域資源を活かし、社会との連携・協働による文化、自然環境、食を特色とした魅力ある社会に開かれた教育課程の編成に努める。
- 学校を軸とした地域(創路圏域)づくりを実現する高校として地域社会に評価され、北海道の高校として存在感を示す教育実践に努める。
- 共生社会の形成に向けて支援を要する生徒のニーズに応じた指導の充実を図るとともに、家庭、地域、関係機関等による連携体制の整備を進める。
- 生徒や保護者、地域をはじめとした他者に対する相手意識を常に念頭に置き、人間関係や組織運営を円滑に進めるとともに、勤務状況に配慮し安全・健康管理に努め、信頼される学校づくりを推進する。

4 自己評価結果

評価基準 【A:達成している B:おおむね達成 C:やや不十分である D:不十分である】

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

評価基準 【A 適切な評価である B ほぼ適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である】

(2) 改善に向けた取組の適切さ

評価基準 【A 十分な効果が期待できる B ほぼ十分な効果が期待できる C あまり効果が期待できない D 全く効果が期待できない】

領域	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善・充実の方策	(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ
I 教育目標	1.本校の教育目標は、北海道教育の使命と本校が育てる生徒像を目指すとともに、地域や保護者の要望や実状に応えるものになっている。	A	教育目標に即した具体的な取組の点検から改善策や新規の取組について学校全体で検討していく。	A	A
	2.本校の教育の全体活動は教育目標や育成を目指す資質・能力を踏まえたものとなっている。	A	社会から求められる資質・能力を育むことを常に意識し、教育活動全般に渡って具体的な取組を推進する。		
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動に地域のニーズを踏まえ、学習活動を展開している点は評価できる。また、地域の持つ教育力を最大限に活用している点もすばらしい。</li> <li>道教委の指定事業を今後の学習活動に活かして教育活動を進めて欲しい。</li> </ul>			
	II 学習指導	1.本校では、全ての教科指導について生徒一人ひとりへの適切な対応と生徒の学力伸長が図られている。	B	基礎学力の定着と学力向上に向けて、習熟度別授業や個別指導を始め、スタディサプリ等の外部機関との連携を充実させ、個別最適な学習支援を行う。	A
2.本校は、現行学習指導要領を理解し、日々授業改善と適切な評価に取り組んでいる。	B	生徒の主体性を伸ばすために、教職員による学習指導に係る研修を充実させ、形成的評価の効果を検証、改善する。			
3.本校は、次期学習指導要領を理解し、それ踏まえた教育課程、並びに教科指導について検討している。	B	新教育課程の運用に向けて、実施上の諸課題を解決し、教育環境の整備に努めるとともに、「探究」と「協働」による授業づくりについての研究を更に推進する。			
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の向上は保護者や地域からも求められているため、教職員の授業研究に今後も期待する。</li> <li>標茶高校のゼミ活動は、生徒の学習活動として非常にすばらしい。今後も継続して取り組んで欲しい。</li> </ul>				
III 生徒指導	1.本校では、生徒に対して挨拶や礼儀などの基本的な生活習慣や規範意識、社会的マナーが身につく教育が行われている。	B	学校と家庭の共通理解のもと基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成やモラルの定着等、指導の理由を明確に説明し、生徒自身が納得の上で自ら改善する姿勢を示すことができるよう粘り強く指導を行う。	A	A
	2.本校では、生徒の日常の様子や生徒間の人間関係など日頃から生徒観察に努めるとともに、全職員で生徒理解を共有し、きめ細かい生徒指導に取り組んでいる。	B	教育相談の充実等、生徒との対話を大切にしながら生徒理解に努める。また、教員が広く生徒と向き合うことのできる時間を確保するために、業務改善を進める。		
	3.本校では、通級や特別支援を踏まえた高校教育について理解し、要支援、並びに配慮を要する生徒に働きかけている。	B	生徒一人ひとりの長を適切に捉え、家庭と連携した上で、公正な指導方法の検討と外部機関との連携を図り、個別の成長を支援できる体制を整える。		
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活の雰囲気もよく、生徒は生き生きと生活している。今後も学校と家庭の連携も継続して取り組んで欲しい。</li> <li>教育相談や面談を通して、生徒の悩みや不安等を把握するよう取り組んで組んでいる点は今後も継続して欲しい。</li> </ul>			
IV キャリア指導	1.本校では、生徒や保護者に対して進路に係る資料や情報、助言を迅速、かつ適切に提供している。	A	紙媒体だけでなく、インターネットやメールを活用するなど、生徒や保護者に対して迅速に必要な情報の提供を行う。	A	A
	2.本校では、生徒に対して総合学科の特性、及び「総合的な探究の時間」を生かし、教科横断的にキャリア教育が行われている。	A	「産社」、「地域探究」、「課題研究」の系統性を保ち、全ての教育活動が目指すベクトルを定向化し、教科指導との関連性をより深め、社会につながるキャリア教育をより推進する。		
	3.本校では、様々な教育活動を通して、生き方や職業観の醸成に努め、社会に通ずる人づくりを意図している。	B	インターンシップや職業講話、地域の社会人との協働活動等をおして、適切な職業観や人観により自ら未来を選択し、社会で活躍できる能力を身につけさせる。		
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒にインターンシップや職業講話を通して職業観を身につけさせる指導が行われていることは良い。</li> <li>教科や系列の枠を超えて進路指導を行っていることは驚いた。今後も生徒の進路実現に向けて取り組んで欲しい。</li> </ul>			
V 寮・特別活動指導等	1.本校では、寮内指導が適切に行われており、生徒の健康や安全面に配慮されている。	C	生徒自らが集団生活における決まりの遵守とコロナ対策を含めた健康安全に取り組めるように教職員全体で指導を行う。コロナにより中止となった生徒による寮の行事等を再び活性化させる。	A	A
	2.本校では、施設設備や周辺環境を活用した専門教育が効果的に実践されている。	B	継続して施設設備の有効活用を図るとともに、老朽化した設備の計画的な更新を図り、時代に合った発展的な教育が実施できる環境整備に努める。		
	3.本校では、特別活動、あるいは生徒会・農業クラブ活動等の取組を通して何事にも主体的に参加し、取り組む人間性を育てている。	A	行事の精選を行いながら、コロナで失われた生徒の主体的な取組を全教職員でサポートして生徒の達成感や成就感を持たせ充実した高校生活となるように取り組む。		
	4.本校では、部活動の指導に当たってはその目的や計画を明確にし、教育的配慮を以て効果的に指導している。	B	部活動は協働的な深い学びの場と捉え、学校と地域をあげて推進するとともに、学社連携を進めることで教職員の働き方改革を進めながら、指導の充実を目指す。		
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ対策を行った上で、学校生活や教育活動を展開していることに学校に感謝する。特に寮生活はご苦労があると思うが継続した取り組みに期待する。</li> <li>高校にはいろいろな施設設備があるが、古いものも多いため更新も含めて検討して欲しい。</li> </ul>			
VI 重点対応	本校では、いじめの実態把握や対応について適切に対応している。	B	生徒・保護者との連絡体制の強化と更なる教育相談の充実を努める。いじめに至る前の人間関係を把握し、いじめの認知と防止に努める。	A	A
	本校では、働き方改革の確実な実行に向けて、計画的な教育活動を心がけ、組織的にも勤務時間の超過解消に努めている。	B	道の働き方改革アクションプランに基づき、業務改善と業務の平準化、地域人材の活用、教職員の意識改革を進め、保護者と地域の理解を得ながら継続した働き方改革を推進する。		
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革の流れを尊重しつつ、効果的な教育活動、部活動等を展開することを期待する。</li> </ul>			
	VII 連携	1.本校では、地域(人材・環境・課題等)と結びついた取組が積極的に行われている。	A	今後も多様な関係機関の方々に継続して教育活動への協力を依頼する。特に人的な協力をお願いするとともに、コミュニティスクールの導入も検討していく。教育振興会からの支援については、より効果的な活用方法について検討する。	A
2.本校では、学校の状況や教育活動等が学校通信やWebページ、レベコメール、報道等を通じて保護者や地域住民の方々に周知されている。		A	今後も学校だけの町内全戸配布やHP、SNS等を活用し、保護者地域の方に積極的な情報発信を行う。出願者の増加に向けた町内外への学校PRを更に推進する。		
3.PTAや同窓会など関係団体と積極的に関わり、自らの教育活動が円滑となるよう努めている。		B	コロナにより停滞したPTA活動を再び活性化させる。生徒による町や地域団体と積極的な連携を支援し、今後も地域創生の観点から協力していく。		
学校関係者の意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育活動に今後も地域の教育力を積極的に活用して欲しい。</li> <li>町民への広報活動も積極的にやっている。今後も継続して取り組んで欲しい。</li> </ul>			
VIII 教職員の資質向上	1.本校では、校内外の研修に積極的に参加し、その成果が共有されている。	B	授業確保により研修機会が減少したが、次年度は必要な全体研修を実施する等、研修機会の確保に努める。特に端末の生徒一人一台導入によるICTの授業活用について、授業方法、導入方法、運用面での課題解決に努める。	A	A
	2.本校では、生徒の安全確保・事故の未然防止、校舎管理に努め、全教職員が事故・災害などへの対応を熟知し、日頃から危機回避の行動を心がけている。	B	年度当初に「緊急時対応マニュアル」による危機管理研修を実施し、教職員向けにより具体的な危機の予防、対応、回復に係る知見を高め、危機場面に備える。		
	3.本校は、勤務時間内外に係らず個人情報管理や飲酒運転、交通事故、セクハラ等、服務規律の保持について常に公務員としての意識を持って業務に当たっている。	A	今後も毎週末に服務規律の保持について管理職より注意喚起や指導を継続していくとともに、内勤けん制が機能する職場の信頼関係の構築に努める。		
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の安心・安全のため危機管理の研修や授業等の指導方法に関する研修等、教職員の皆さんは大変だと思いますが今後も継続的にお願いしたい。</li> <li>生徒の見本となる構であるため、服務規律についても今後も公務員として意識を持って取り組んで欲しい。</li> </ul>			
IX 生徒に必要な資質・能力	現在の標茶高校の生徒に必要なもの(こと)は総じて何か、次の中から3つ選んでください。 A基礎学力 B体力 C専門技術(知識) D就職 E進学 F安全意識 G明るさ H優しさ I礼儀 J部活動 K友人 Lボランティア M国際観 N一般常識 O資格取得 P向上心 Q競争心	【上位】 ① A:基礎学力 ② I:礼儀 ③ P:向上心 ④ N一般常識 ⑤ B体力			
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人になるにあたり上位5項目は大切な事項であるため今後も継続して指導をお願いしたい。</li> </ul>			